

6 1歳6か月児健康診査の保健指導



(1) 特 性

- ・ 体型は次第に細身に変化し始める。
- ・ 歩行が可能になる。
- ・ 手指操作の微細運動が発達し、道具が使えるようになっていく。
- ・ 社会性の発達とともに自我の芽生えが見られる時期である。
- ・ 視線、指さし動作、さらにことばによる意志の伝達と受け取り（周囲の指示理解）が可能になる。

(2) 保健指導のねらい

- ・ 子どもの発育段階に応じた親子遊びなどをおして、コミュニケーション行動（ことば）の発達、精神面及び運動面の発達を促す。
- ・ 咀嚼機能や消化機能にあわせた形態のバランスのとれた食事及び食事の一部としてのおやつについて説明する。
- ・ 基本的な生活習慣のしつけを説明する。
- ・ むし歯予防について、説明する。
- ・ 事故防止と安全教育を行う。
- ・ 発達障害の疑いがある場合、養育者の不安感をあおり立てることなくその困り感に継続的に相談に乗り、発達援助をしながら必要に応じ医療機関やその他の機関を紹介する（発達障害者支援法（平成20年改正）に基づき、発達障害児への支援を実施する）。


(3) 保健指導の実際

特 性	観 察 事 項	保 健 指 導
I 発育・発達 1 身体発育 ○乳児期に比べ体重増加は緩徐になり、体型は細身型になる。 ○視覚 ・ 視力 0.3～0.4 ・ 眼位は安定 ・ 視力は生後いろいろ	○身体発育状況 ○食事の摂取状況、疾病罹患傾向、活動状況などについて、総合的に観察・評価する。 ○大泉門が閉じていない、頭囲が大きい・小さいということはないか。 ○目についての心配の有無 ・ 目つきや、目の動きで心配はないか。 ・ 斜視がないか。	○計測値を母子健康手帳にその都度記入し、養育者と共に発育の様子を確認することが大切（P.13 参照） ○頭囲曲線により確認する。 ・ 医師の指示により、必要に応じて受診を勧める。 （健康診査の手引 P.4 参照） ● X脚・O脚・内反足 ・ 医師の指示により、必要に応じて受診を勧める。 ○視線が合うことは、対人関係の重要な基礎であるため、視力だけではなく、人に対する反応として観察する必要がある。

特 性	観 察 事 項	保 健 指 導
<p>な視覚刺激を受けることで発達する。見えにくい状態が続くと視力が育たず弱視になる可能性がある。</p> <p>○聴覚</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言語理解がすすむ。 ・呼名への振り向きは聴力だけでなく、自分の名前を理解し、人の呼びかけに対する応答行動でもある。 	<p>○名前を呼ばれて振り向くか。 (9か月頃から呼名に振り向く)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・呼名に対する反応を確認する。 ・振り向かない場合は、どういった関わりなら反応するのかを確認する。 (テレビ・電話の音・肩を叩く・養育者が呼ぶ・環境による反応の違いなど) <p>○中耳炎などの既往</p> <p>○聴覚の問題だけでなく、言語発達や社会性の発達なども合わせて判断する。</p>	<p>○両眼視機能障害を来さないためにも、心配な点があれば眼科受診を勧める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調節性内斜視(遠視の調節のために内斜視になっている)は、早期受診を勧める。 ・偽内斜視(鼻根部が平坦で幅が広いため、眼位は正常でも内斜視にみえる)も多い。 <p>○日常における目の保護</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テレビやDVDなどをみる時は近づきすぎない。長時間続けてみせない。 <p>●ことばの遅れがある場合(発語以外の発達が良好)は聞こえの確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での観察を十分に行う。 ・母子健康手帳の「きこえに関するチェックシート」での確認をする。 (健康診査の手引 P.55 参照) <p>●名前を呼んでも振り向かない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音への反応があるかどうか確認する。 ・日常生活でお気に入りの音楽などにテレビのみえない所から敏感に反応するかどうか。 ・どういった関わりなら反応するか確認する。 ・精神発達の遅れ、社会性の遅れがないか確認する。 ・新生児聴覚検査の結果を確認する。 <p>●耳鼻科疾患の疑い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・難聴が心配される時は受診を勧める。 ・中耳炎の再発防止について 中耳炎は感冒の後に起こしやすく、また再発しやすいので、感冒罹患時は、耳の聞こえに注意する。また、鼻汁をすすらないように鼻汁をふきとるなど配慮する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-top: 10px;"> <p>よくある訴え 滲出性中耳炎 (P.85)</p> </div>
<p>2 運動発達</p> <p>○独り歩きの完成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1歳6か月で90%が歩行可能 ・ローガード歩行(16~18か月) 上肢が下に降り、 	<p>○歩き方に問題はないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つまずいたり、転んだりせず、2~3m歩くか。 ・shuffling babyの場合、いずれ歩行できるが1歳6か月では歩かないことが多い。 	<p>○動きやすい服装を勧める。</p> <p>○戸外での遊びやからだを使っでの親子遊びを勧める。</p> <p>○医師の指示より、必要に応じ医療機関の受診や療育相談などを勧める。 (健康診査の手引 P.36 参照)</p>

特 性	観 察 事 項	保 健 指 導
<p>ある程度の上下肢の協調運動がみられるようになる。</p> <p>○微細運動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的に合った道具の使用ができる。 ・つまみ動作もできて手指の操作が巧みになる。 <p>9か月頃から、拇指～第3指で摘む。</p> <p>12か月頃から、拇指と示指で摘む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・握り方に関係なく鉛筆でなぐり書きをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・未歩行又は、左右差のある歩き方、尖足歩きや外反扁平足がないか。 <p>○スプーンやコップの使い方を確認する。</p> <p>○積み木が積めるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積み木をその場で積ませて、持ち方と積み方をみる。 ・積み木は一辺が3cm程度の方がよい。プラスチックより木の方がよい。 <p>○干しぶどうなどの小さいものをつまめるか聞く。</p> <p>○鉛筆でなぐり書きができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉛筆の持ち方は問わない。 	<p>○微細運動だけでなく、道具の意味や使い方を理解していないとできない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・操作性のあるおもちゃでの遊びの勧め 積み木、ピアノ、電話、イタズラボックスなど ・経験不足の場合は、積ませたり、つまませたり、なぐり書きをさせたりする。 <p>●小さい物がつまめない、つまみ方がおかしい、不随運動を伴う場合や、道具の使い方が理解できていないようであれば、医師の指示により、必要に応じて受診や療育相談などを勧める。</p>
<p>3 精神発達</p> <p>○名前を呼ばれると、振り向き、視線を合わせることができる（9か月頃から、呼名に反応し振り向く）。</p> <p>○指さしとことば</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9か月～1歳3、4か月が指さしの形成期 ・1歳6か月には、指さし行動が完成し、人とのコミュニケーションの中に位置づけて使用できる。 <p>①志向の指さし（共同注意）</p> <p>「見てごらん」と大人が指さすと見て共有する（9か月頃から～）。</p>	<p>○呼名に対する反応、指さし動作を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼んだり、おもちゃを渡したりして、視線が合うかを確認する。 ・欲しいものがあつた時どのように要求するか確認する。 <p>○三項関係が成立しているかどうか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10か月頃から三項関係が成立してくる。 <p>大人と子どもが直接的に向き合って（刺激→反応）いるだけでなく、テーマを加えた（三項）やり取りになっているか。</p> <div data-bbox="491 1691 842 2042" style="text-align: center;"> </div>	<p>●視線が合わない。（P. 52 参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な人となら視線が合うか。 ・人見知りが強くて視線を合わせないのかなど、家庭での様子を確認する。 <p>○大人との間で了解されたテーマを意図的にやりとりすることを確認する（顔を見ないで一方向的に指さす。絵本を次々に指さしているのは、共感・共有の指さしには該当しない）。</p> <p>○指示に応じて、大人との意図的なやりとりができるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの関心の強いものだけでなく、大人が指示したものにも理解を示すか。養育者が子どもからのメッセージをうまく受け止めているか（母子相互作用）も確かめる。 ・できない場合は、家庭の日常場面で興味のある事柄について指示を与えた場合を確認する。 <p>●指さしがみられない場合、どのように要求しているかを確認する。</p>


特 性	観 察 事 項	保 健 指 導
<p>②要求の指さし 何かしてほしい時に指さしで要求する。(1歳前後～)</p> <p>③共感・共有の指さし 興味あるものを指さしして教える。</p> <p>④応答の指さし 「○○はどこ？」や絵本などで、「○○どれ」と聞くとそれを指さす。</p> <p>○事物の理解と言語理解 ・簡単な指示に従える。 ・ものには名前がついていることを理解し始める。 ・大人の意図やことばの意味の理解が進む。</p> <p>○意味のあることばが言える(単語2つは言える)。</p>	<p>・子ども自らが何か(犬など)を見つけ、指さして大人に伝えようとするか。 ・発声・発語を伴うか。 ・絵本を見て、「りんごどれ？」などの問いに答えて指さすか。</p> <p>○簡単な指示を理解し応じられるか。 ・「おもちゃ(リモコンなど、子どもの関心の高い物)持ってきて」「ゴミポイして」などの指示に応じるか。 ・ことばだけの指示でこの場にならないことでも理解しているか。 ・大人の関心事にも興味を示して、大人の意図、ことばを理解しているか。</p> <p>○ママ、ブーブーなどの有意味語が言えるか。 ・対象とマッチしているか。</p>	<p>・ただ泣いているか。 ・手全体で指すか。 ・クレーン(大人の手を道具のように使って)現象での要求か。 ・お菓子の袋を持ってきて、差し出すか。</p> <p>○ことばの育つ条件 <子ども側の条件> ・視線がよく合うこと ・発声や指さしなどで欲求を伝えようとする ・喃語が豊富に出ていて聞こえに問題がないこと ・大人のことばかけを理解し反応があること ・目的に合った道具の使い方ができること ・2～3個しか単語が出ていなくても、人とのコミュニケーションの基本が育っており、精神発達に問題がなければ、心配いらない。</p> <p><コミュニケーションを高める関わり> ・大人が子どもとゆったりと関われる時間を持つ。 ・スキンシップ(おんぶ、抱っこ)や、からだを使った遊び(二項関係)、おもちゃを使ったやり取り遊び(三項関係)をする。</p> <p><ことばを育てるための関わり> ・子どもの動作や気持ちをことばに置き換えて、場面に沿ったことばかけをする。 ・ことばかけは、短く分かりやすいことばで、明瞭な発音で繰り返し行う。 ・子どもの目を見て正面から話しかける。 ・「こんにちは」「おはよう」「おやすみ」など、挨拶も忘れないようにアドバイスする。</p> <p>●発語がみられない場合 ・呼名に対する反応、指さしを確認する。 ・聞こえに問題がないか確認する。</p>


特 性	観 察 事 項	保 健 指 導
<p>・ことばの発達は個人差が大きい。ことばの数よりコミュニケーションの基礎が育っていることが重要である。</p> <p>○対人関係と社会性の発達</p> <p>・大人のやることを見ている盛んにまねをする。</p> <p>・自動車や人形などのおもちゃをそれらしく使う。</p>  <p>○同じ年頃の子どもに興味を示すようになる。</p>	<p>・第三者にもある程度通じるか。</p> <p>・定着しているか（頻回に出ているか）。</p> <p>○人のまねをするか。</p> <p>・大人が化粧したり、掃除したりするのを見てまねするか。</p> <p>○自動車のおもちゃを「ブーブー」と言いながら押して遊んだり、人形を抱いたり寝かしたり、ままごと道具でお茶を飲むまねをするか。</p> <p>・おもちゃの機能や性質を理解して遊べるか。車を一列に並べて眺めていたり、繰り返しタイヤを回すだけの行動は、やり取りにつながらない。</p> <p>○周囲への関心が育っているか、人を意識しているかをみる。</p> <p>・他の子どもと遊ぶ場面でどんなふうになっているか。</p> <p>・他の子どもの遊びに関心があるか。</p> <p>・見ているまねをすることがあるか。</p>	<p>・理解に問題がないか確認する。</p> <p>・三項関係が確立しているか。</p> <p>・ことば環境に問題がないか。</p> <p>①ことばかけの少なさ</p> <p>②ことば刺激の不適切さ（子どもにとっての分かりにくさなど）</p> <p>・指さしでの要求がなく視線が合わず呼んでも振り向きがない場合は、養育者の気持ちに配慮しながら、経過観察、精密検診や療育相談などを勧める。</p> <p>・断定的な言い方や、養育者に過度に不安を与えないように配慮し、子どもにわかりやすいことばかけをし、理解を進めるようなやり取り遊びをしてもらい、指さし動作をやってみせて、共同注意を進めるようにしながら様子を見る。</p> <p>●一人遊び、遊びの広がりが少ない。</p> <p>・一人遊びに任せてしまわずに、大人が相手をして働きかけたり、子どもの関心のある遊びを大人がモデルとしてやってみせる。</p> <p>・食事・排泄などの日常生活の基本動作も子どもの興味に合わせて、やらせてみる。</p> <p>・おもちゃの機能性の理解に問題があるようなら、精神発達や社会性の発達の遅れが疑われる。</p> <p>○この時期に適したおもちゃ</p> <p>・からだを動かして楽しめるもの（玩具車、ボール、滑り台など）</p> <p>・操作したり道具を使い分けて遊ぶもの（ままごと道具、電話、自動車、お絵かきセットなど）</p> <p>・周囲の事物を見たり聞いたりして楽しむもの（絵本、テレビ、音楽など）</p> <p>○子ども同士の仲間遊びはまだできず各々で遊ぶことが多いが、子どもが側にいることは好む。</p>

特 性	観 察 事 項	保 健 指 導
<p>○養育者から離れて動き回るようになるが、慣れない場面では養育者から離れない。</p>	<p>○よその家やデパートなどの慣れない場所では、慣れるまで養育者の側にいるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具合が悪かったり、何か怖い物があると、養育者にしがみついたり、後追いしたりする。 ・養育者といると安心するか。 <p>○誰がいてもまるで人がいないかのように無視して動き回るようなことはないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の家庭場面において落ち着かない傾向があるか。 ・好きな遊びには集中できるか。 ・慣れない場面での行動が普段と違うか。 <p>○視線を合わせ、感情交流、意思表示ができるか（嬉しい時、困った時などまなざしで伝えられるか）。</p>	<p>○この時期の親子関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳児期からの養育者との相互作用によって愛着形成がなされ、今後の精神発達の土台となる基本的な信頼関係が成立している。 ・このため体調の悪い時や不安な時には、養育者の側にいることで安心を確保しようとする。 <p>●多動傾向が認められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養育環境の不十分さ（大人の関わりの不十分さ）が疑われる場合は、この時期の安定した関わりの大切さを説明し、子どもとからだを使ったスキンシップ遊びでの関わりを短時間（1日 20～30分）でも確保するよう勧める。 ・他の発達の問題も疑われる場合には、必要に応じ経過観察、精密検査や療育相談を勧める。 <p>●視線が合わない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人見知りがあったか。 ・他の発達の問題の有無も確認しながら、必要に応じ経過観察し、療育相談などを勧める。 <p>（健康診査の手引 P. 37～43 参照）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>よくある訴え</p> <p>落ち着きがない (P. 79)</p> <p>発達障害の心配はないでしょうか (P. 79)</p> <p>自閉的傾向 (P. 79)</p> </div>
<p>II 栄養と食事</p> <p>○歯の萌出にともない咀嚼機能が発達し、離乳が完了、幼児食に移行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・離乳の完了とは、形のある食物をかみつぶすことができるようになり、栄養素の大部分が母乳または育児用ミルク以外の食物から 	<p>○一日の食事量・内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・好き嫌いの有無 ・おやつの量・内容 <p>○発育状況とあわせて、必要な栄養が摂られているかを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやつは時間を決めているか。 	<p>○幼児の食事行動と食欲などの特性について、説明する。</p> <p>○食事の目安について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事：軟飯・軟菜で1日3回 ・おやつ：1日1～2回 ・牛乳またはミルク(コップで)：1日200～300ml <p>○食事状況を聞く中で、極端に偏りがあったり、問題のある場合は、肥満予防の点からも養育者の注意を促しながら説明を行う。</p> <p>（健康診査の手引 P. 43～44 参照）</p>


特 性	観 察 事 項	保 健 指 導
<p>とれるようになった状態をいう(通常12～15か月頃。遅くとも18か月には完了)。</p> <p>○ 幼児の食行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一定した食欲を示さずムラがある。 ・食事をするよりも周囲の人や物事に興味があり、食事のみに集中しない。 ・意欲はあってもこぼしたりの失敗も多く気も散りやすく、あきやすい。 ・スプーン・コップなどを自分で持ちたがり何とか使えるようになる。 ・16か月で90%がコップで水が飲める。 ・こぼさずにスプーンの使用ができるのは23か月で90% 	<p>○スプーンを持って、自分で食べようとするか、確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・哺乳瓶を使っていないか。 ・コップで水が飲めるか。 	<p>○食生活のリズムを整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事時間を決める。 ・必要な栄養をとるための食事の一部としてのおやつの必要性、おやつの与え方について説明する。 <p><おやつの与え方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間を決める(食間の午前10時か午後3時頃)。 ・総エネルギーの10～15%で150kcal程度が必要な目安 ・牛乳、チーズ、果物、いも類、おにぎり、パン、甘くないお菓子など ・甘みの強い菓子(キャラメル、あめ、チョコレートなど)、スナック菓子は、満腹感を与え、むし歯の原因にもなるので、少なめにする。 ・炭酸・乳酸飲料及び果汁飲料については、10%程度の糖分が含まれているので多飲させない。 <p>○楽しい食卓の雰囲気づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で食べようとする意欲が出てくるが、こぼすことも多く手づかみで汚すのが常である。養育者は意欲を伸ばす態度で見守ることを勧める。 ・食事に集中できるようにおもちゃは見えなくしてテレビは消す。 <p>○哺乳瓶の使用はだんだんにやめるよう勧める。</p> <p>(むし歯、歯列不正、下顎発達への悪影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コップで飲めるように、はじめは養育者が手をそえてほんの少しの量から始めてみる。 <p>○食事の行儀のしつけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この時期の食行動と食欲の特性を説明する。この時期は乳児期後半にしばしば低下する食欲がまだ回復していないことがあり、また、気が散りやすく注意散漫なため落ち着いて食べ終われない。 ・食物をおもちゃにしないことと、食前・食後の清潔のしつけを始める。

特 性	観 察 事 項	保 健 指 導
<p>○離乳が完了したら、栄養面からは、母乳の役割は終わる。</p>	<p>○食事のことで困っていることはないか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無理に食べさせていないか。 ・おやつや飲み物が多くないか。 ・水などの助けで飲みこんでいないか。 ・急がせたり、無理に食べさせていないか。 ・軟らかい食べ物だけを食べていないか。 <p>○母乳をやめたい場合、なぜやめたいのか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体重増加不良、少食などの問題がないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●遊び食べ、むら食い、小食、好き嫌い <ul style="list-style-type: none"> ・一時的なものであることが多い。 ・無理強いせず、調理方法や調理形態で工夫する。 ・戸外遊びを多くしたり、おやつを減らしたりして空腹の状態に食事に向かわせるような工夫をする。 ・感情的に叱らない。 ●よく噛まずに、丸飲みをしている。 <ul style="list-style-type: none"> ・まず、噛まない原因を考えてみる。 ・急がせたり、無理に食べさせると、丸飲みの癖がつきやすい。 ・噛むとおいしさが味わえる工夫をする。 ・ゆったりと食べる習慣をつける。 ●母乳をやめたいがやめられない(卒乳)。 <ul style="list-style-type: none"> ・母乳には栄養面の他に母子間のスキップの重要性があり母親の気持ちに配慮が必要。「卒乳」という言い方をし、子どもの意志で離れていくのを待つのも一つである。 ・授乳を母親が苦痛に感じているなら、子どもに「やめたい」ことを伝え、遊びなどで子どもの気持ちを別の形で満たすよう心がけること。
<p>Ⅲ 生活習慣としつけ</p> <p>○自我の芽生えが顕著になり、しつけを開始する時期であるが、自立には至らない。</p> <p>1 基本的な生活習慣</p> <p>○基本的な生活習慣について、子どもは家族のやり方を見て、まねしながら身につけていくものである。</p>	<p>○清潔に心がけているか。</p>	<p>○清潔に心がける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚疾患の予防と生理機能の促進に有効であるが、この時期では養育者が気をつけてやる必要がある。 ・家族も衛生面を意識していくことが大切である。 ・養育者が根気強く手伝う。 ・入浴の励行 ・外出後の手洗い、うがい

特 性	観 察 事 項	保 健 指 導
<p>2 生活のリズム</p> <p>○生活のリズムが安定する。</p> <p>○平均的な睡眠時間は1日10～12時間であり、昼寝は大体1回にまとまってきて2～3時間である。</p>	<p>○生活のリズムは整っているか。</p> <p>○夜はよく眠るか。</p> <p>・生活のリズムの乱れや睡眠不足はないか。</p> 	<p>○子どもの生活のリズムは家族の生活リズムに影響されやすいことを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭内の生活リズムの調整 ・生活の中で、起床・就寝・食事の時のあいさつを習慣づける。また「こんにちは」「ありがとう」なども教えていく。 <p>○就寝・起床・昼寝・入浴時間、日中の過ごし方を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝はほぼ同じ時刻に起こす。 ・起きたら朝の光を浴びさせる（朝を認識させる）。 ・顔を拭く、服を着替えるなど身支度を整える。 ・風呂は、就寝時間の1時間前位までに入れる。 ・夜は必要以上の照明をつけない。 ・パジャマに着替え、歯を磨くなど眠る前の準備をする。 ・毎日できるだけ同じ時刻に寝かし付け、照明を落とす。 ・養育者が添い寝をしてもいい。眠ることへの不安を取り除く。 ●就寝儀式（タオルをくわえる、指しゃぶりなど） ・安心して寝られるように子ども自身がやっていることなので、叱ったり禁止したりせずにやらせておいてもよい。 ・指しゃぶりの程度がひどく気になる場合は、手を握ってやったり絵本を読むなど、子どもが安心していられる別の方法を考える。
<p>3 排 泄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排尿の間隔は2時間を超え、回数は少なくなる。 ・尿量は1日500～600ml ・1歳6か月から2歳6か月で尿意、便意の予告ができる（ことばや身振りで）。 ・尿意を意識しそれを 	<p>○排泄のしつけを始めているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄を促す働きかけをしているか。 	<p>○排泄自立の過程には、順序性と個人差があることを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尿意を予告できればおむつははずせるので、この段階でしつけをあせらなくてよい。 ・パンツにしたが汚してばかりでイライラするようならおむつに戻してもよい。 ・排泄の機能の発達に伴い尿を貯めることができるようになれば、もらす前に予告できるようになる。

特 性	観 察 事 項	保 健 指 導
<p>訴えるが、抑制力はない。排尿してから知らせる。</p>		<p><排泄のしつけの基本></p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄したら気持ちよいということ子どもと共有する。→「出る感覚」を。おむつがいつも清潔であること。→「出た感覚」をもたせる。 ・排泄の間隔が長くなってきたら様子を見て便器などにかきさせる。 ・安心してリラックスできる環境、用具を整える。 ・強制せず、うまくできたらほめてやる。 ・予告ができるようになったら、おむつをはずす。 ・しつけの開始の時期の早い遅いが排泄自立の早い遅いに単純にはつながらない。 ●便器に腰かけるのを嫌がる。 ・無理強いせず、時間をおくなどして、気分転換を図りながら、様子を見る。 ・トイレが怖くなく嫌な場所でなくなるよう工夫する。
<p>4 しつけ</p>	<p>○しつけの仕方困っていないか。</p> <p>○指しゃぶりはどんな時にするか。</p>	<p>○しつけの基本について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じたものであること ・子どものペースに合わせて、根気よく、一貫した態度で接すること ・生活の場や道具など、子どもにとって使いやすい環境を整えること ●ほめ方、叱り方がわからない。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>よくある訴え</p> <p>ほめ方上手になるには (P. 91)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ●指しゃぶりがやめられない。 ・指しゃぶりの程度がひどく気にかかる時には、養育者が手を握ったり、本を読むなど、子どもが安心してできる別の方法を考える。 ・無理にやめさせる必要はないが、できるだけスキンシップを持つ時間を心がけ一緒に遊んだり声をかけるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>よくある訴え</p> <p>指しゃぶり (P. 80)、おしゃぶり (P. 81)</p> </div>

特 性	観 察 事 項	保 健 指 導
IV 疾病予防と健康増進 1 予防接種と健康増進	<p>○予防接種の接種状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳や母子健康記録票で接種状況を確認する。 	<p>○予防接種について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・接種の時期と接種時の注意 <ul style="list-style-type: none"> 定期 インフルエンザ菌b型（ヒブ）、肺炎球菌、四種混合の追加接種を完了していること 1歳より：麻しん、風しん（MR）の接種を完了していること 任意 インフルエンザ 1歳より：水痘、おたふくかぜ <p>※詳細は日本小児科学会ホームページ、日本小児科学会推奨の予防接種スケジュールを参照</p> <p>○母子健康手帳の積極的活用について（P.14 参照）</p> <p>○感染症の流行時には、むやみに人混みに連れ出さないようにする。</p> <p>○手洗い、入浴の実施</p> <p>○バランスの良い食事を心がける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の後は、十分な水分の補給と休養をとる。
2 事故防止 ○歩行の開始により行動範囲が広がると共に精神面の発達により探索活動が旺盛となり、思わぬ事故が急増する。	<p>○環境の整備に配慮しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険な箇所、物を点検し、整備する。 （転落・熱傷・誤飲・溺水・交通事故など） ・薬品・化粧品・硬貨・タバコ・その他周囲のあらゆるものが口に入る危険があることから、普段の置き場所、管理に注意する。 	<p>○養育者と子どもに対しての安全教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ことばでの危険が認知される時期ではないので、大人が先に行動し、子どもの動きを抑制する心構えが必要なことを説明する。 ○危険に対する禁止は繰り返し教えていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・時には、目を見てしっかり教えること ・ことばだけでなく行動でも体験させる。例えば触ってはならないものは駄目と言いながら取り除き、危ない所に行こうとするときはそのように言いながら抱えこんで行かせない。 ●歯ブラシ事故について（P.15 参照） <ul style="list-style-type: none"> ・歯ブラシを口にくわえて走り回ったりさせない。
V 歯及び口腔の健康 ○乳歯の萌出は上下顎で12～16本	<p>○歯の状況・口腔内の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯の萌出本数 	<ul style="list-style-type: none"> ●全く萌出がみられない。 ・専門の医療機関への受診を勧める。

特 性	観 察 事 項	保 健 指 導
<p>○う蝕（むし歯）の好発部位：上顎前歯部</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・むし歯の本数 ・口腔内の疾患 <p>○歯の清潔について、むし歯予防の注意がされているか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯みがきをしているか。 ・大人の仕上げみがきをしているか。 ・むし歯の処置などについて困っていないか。 <p>○歯や口腔の健康について困っていることはないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事やおやつとの与え方で困っていないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ●不正咬合の心配 ・あきらかな異常でなければ、3歳児健診時に歯科医師に相談する。 <p>○歯みがき指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯ブラシに慣れさせる。 （人まねをするので、きょうだいや養育者と一緒にさせるとよい） ・1日1回は大人が仕上げみがきをする。 ・子どもを寝かせ、頭を膝の上に乗せてみがく「膝みがき」がよい。 ・話しかけながらみがく。 ・歯ブラシは刷毛部が小さい、乳児用又は幼児用のものがよい。 ・歯と歯の間のむし歯予防のためにデンタルフロスを使用するとよい。 ・歯をみがかせない子どもに対して普段から歯みがき好きになる工夫をしておく。 歯みがきについて描かれた絵本をみせたり、ぬいぐるみやお人形の口元を子どもにみがさせる歯みがきごっこをする。 歯みがきの歌を歌ったり、音楽を聴かせたり、DVDをみせたりするのもよい。 ・歯をみがかせない時は無理強いせず、子どもの機嫌のよい時に少しずつみがいてあげる。 ・電動歯ブラシを使ってみるのも一つの方法である。 <p>○むし歯予防（P. 39 参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> ●むし歯がある場合 ・専門医への受診を勧める。 ・進行が早いので、早めの受診を勧める。 ・予防処置も歯科医師に相談できることを紹介する（フッ素塗布など）。 ・適切な日常生活の注意でむし歯の発生及び進行阻止は可能であることを説明する。 （健康診査の手引 P. 55～57 参照）
<p>VI 子育て支援</p>	<p>○子育て環境は整っているか。</p> <p>○子育てについて困っていること、相談したいことはないか確認する。</p>	<p>○子育て上の不安や養育者の心身の状況を確認しながら相談に乗る。</p> <p>○必要に応じ、地区担当保健師が相談に応じることを伝える。（P. 13 参照）</p>